

| | | | | | | | | | |
|--|-----------------------------|--|-------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 政策体系 | 政策No. | 3 | 政策名 | 活力ある産業のまちづくり | | | 施策主管課 | 商工振興課 | |
| | 施策No. | 3 | 施策名 | 観光業の振興 | 重点施策 | ○ | 施策主管課長名 | 谷口 隆幸 | |
| 施策関係課名 | 観光課、商工振興課、企画政策課 | | | | | | | | |
| 1 基本計画期間(平成25年度～平成29年度)における施策の方針 | | | | | | | | | |
| 本市ならではの豊富な素材を活かした観光地づくりを推進するとともに、新たな情報発信方法の展開を工夫し、知名度の向上に努める。また、観光客の満足度を高めるため、観光関係機関や地域と一体となった「おもてなし」による受入体制の充実に努める。 | | | | | | | | | |
| 2 施策の目的と成果把握 | | | | | | | | | |
| ① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか) | | 観光業者・従事者 | | | | | | | |
| ② 対象指標 (対象の大きさを表す指標) | | 単位 | 区分 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
| A | 観光業事業所数 ※観光協会に加入している事業所数 | 事業所 | 見込み値 | 250 | 260 | 270 | 280 | 290 | 300 |
| | | | 実績値 | 252 | 246 | 244 | | | |
| ③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか) | | 経済的に豊かになる | | | | | | | |
| ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%～105%未満) △目標を未達成(95%未満) | | | | | | | | | |
| ④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標) | | 単位 | 区分 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
| A | 観光客数(宿泊+日帰り) | 人 | 成り行き値 | 6,733,400 | 6,733,400 | 6,733,400 | 6,733,400 | 6,733,400 | 6,733,400 |
| | | | 目標値 | 7,500,000 | 7,650,000 | 7,803,000 | 7,959,000 | 8,118,000 | 8,280,000 |
| | | | 実績値 | 7,367,062 | 7,715,418 | 7,568,596 | | | |
| | | | 達成率 | 98% | 101% | 97% | | | |
| B | 観光客数(宿泊+日帰り)×観光客1人当たりの消費額 | 百万円 | 成り行き値 | 50,230.0 | 50,230.0 | 50,230.0 | 50,230.0 | 50,230.0 | 50,230.0 |
| | | | 目標値 | 52,800.0 | 53,800.0 | 54,800.0 | 55,800.0 | 56,900.0 | 58,000.0 |
| | | | 実績値 | 55,235.0 | 56,973.0 | 55,300.0 | | | |
| | | | 達成率 | 105% | 106% | 101% | | | |
| C | | | 成り行き値 | | | | | | |
| | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | 達成率 | | | | | | |
| ⑤ 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか) | | ⑥ 平成29年度の目標値設定の考え方 | | | | | | | |
| <p>A 観光客数(宿泊+日帰り) ※年度ではなく暦年(1～12月)での実績把握</p> <p>B 観光客数(宿泊+日帰り)×観光客1人当たりの消費額 ※観光客数:鹿児島神宮、温泉センター、登山客、海水浴客などの観光施設の利用者数、ホテル、旅館の宿泊者数はホテル、旅館、観光施設からの市取得データ ※観光客1人あたりの消費額:県の推計データ(県外26,000円、県内13,000円、日帰り県外7,000円、県内3,000円) ※日帰り客数の県内外按分比率は過去の推計割合から5:5とする。</p> | | <p>A B 「観光客数(宿泊+日帰り)」及び「観光客数(宿泊+日帰り)×観光客1人当たりの消費額」については、世界的な経済低迷に加え、新燃岳噴火の影響により、平成23年は大幅に観光客数が減少したが、九州新幹線鹿児島ルート全線開業効果や官民一体となった観光客誘致活動を展開することでいち早く持ち直しており、今後は、関係機関や地域と一体となった「おもてなし」によるリピーターの確保、海外や低価格運賃の航空路線参入を視野に入れた観光客誘致活動などにより、平成23年度実績値の観光客数673.3万人、観光客数×観光客1人当たりの消費額502億円から、それぞれ約150万人、約78億円の増加を目指す。</p> <p>B</p> <p>C</p> | | | | | | | |

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- 観光地としての本市の知名度を向上させる必要がある。
- 本市ならではの自然や景観を活かした魅力ある観光地づくりに取り組む必要がある。
- 地域の観光資源を発掘し、観光客誘致につながるような着地型観光商品を企画・開発する必要がある。
- 個人観光客でも容易に移動ができるように、空港や駅などから観光地までの二次アクセスを強化する必要がある。
- 常に新しい情報を多くの人に発信する取り組みとして、インターネットなどの方法を活用したPRを展開する必要がある。
- 観光協会と一体となった情報発信や観光宣伝、イベントの実施などにより、情報共有や協働事業の展開を図る必要がある。
- 外国人観光客への情報提供として、外国語版のパンフレットや案内表示板を充実させる必要がある。
- 再び訪れたい観光地づくりを進めていく上で、地域や関係機関と一体となった「おもてなし」を充実させる必要がある。
- 九州新幹線鹿児島ルート全線開業とともに、鹿児島空港を活かした観光客誘客に取り組む必要がある。
- 本市の観光動向を注視し、ニーズに即応した観光施策を展開する必要がある。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

| ア) 行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) | イ) 市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■国・県・市 ・市に観光客を誘致するための宣伝を行う。 ・観光関連事業者の育成や資質向上の為の接遇研修。 ・リアルタイムな観光情報の発信。 ・各種観光情報誌の作成。 ・県内外、海外からの観光客誘致活動。 ・観光施設(例:Wi-Fi、外国語標記案内看板、音声案内ガイドシステム)の整備を図る。 ・観光客を受け入れる体制を整備する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■観光業者(自助) ・自らの資質向上を図ること。・観光客を暖かくお迎えする。 ・環境美化活動を推進(花いっぱい運動など)する。 ・市に観光客を誘致するための宣伝を行なう。 ・自ら経営努力を行い、生き残りを図る。 ・受入体制の整備を図る。 ■観光協会(自助) ・観光業者全体の資質向上を図る。 ・市に観光客を誘致するための宣伝やイベントを行なう。 ■市民(協働) ・観光客をあたたくお迎えする。・環境美化活動を推進する。 ・自ら自分達の地域を知る。 |

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 最近の経済低迷から、安くて近い旅行形態が増えつつある。
- 今後ますます小グループ化、個人志向の旅行が増えていく。
- 大型宿泊施設の閉館、硫黄山の入山規制等により福岡、中国、関西及び関東方面からの観光客が減少している。
- 中国、香港線などが増便されるなど外国人観光客が年々増加することが見込まれることから、海外からの誘客活動や受入体制の充実が望まれている。
- 安心して旅行できる観光地としての安全対策や的確な情報の提供が必要とされる。
- 誘客活動として、各種メディア・ホームページ等を活用した情報の提供が必要とされている。

③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- 農商工観の連携をさらに図ってほしい。
- 市にある豊富な観光資源をさらに活用して観光客誘致を図るべきである。
- 国際線活用によって海外からの観光客を誘致すべきである。
- 通過型の観光客ではなく滞在型(宿泊)の観光客の増大を図るべきである。
- 二次アクセスの充実を図る。
- 知名度向上のための様々なPR方法の検討が必要である。
- 受け入れ体制のための整備を図る必要がある。

5 施策の現状

| | |
|--|--|
| <p>① 平成26年度施策の取組方針</p> | <p>② 平成26年度施策の取組方針の達成状況</p> |
| <p>①豊富な自然観光を生かすため、現状の再認識及び現況を生かした観光地づくりと観光素材のPR、提供を行う。 ②豊富な温泉に恵まれていることへの再認識と温泉を生かした観光素材づくりを行う。 ③自然や歴史、文化などの素材を活かす方を具体化し、実行に移す。 ④交通の要衝であることを生かすとともに、地域に点在している観光地への二次アクセス向上に努める。 ⑤火山と共生するため、関係機関が一体となった安全対策を講じる。 ■豊富な観光素材を生かしたPRにより、まずは知名度の向上を図る。(新規誘客) ■再び訪れたい観光地として、魅力ある観光地づくりと地域や関係機関が一体となったおもてなしの充実を図る。(リピーター確保) ■観光基本計画の後期として、課題の洗い出しと今後の方策など、現状や動向を踏まえた新たな観光戦略を講じる。(課題の精査と解決)</p> | <p>■霧島神水峡遊歩道・惣陣が丘展望所(福山)の整備を行い、メディアやホームページを通じて観光素材のPR提供を行った。 ■豊富な温泉と温泉文化を広く情報発信するため、霧島市内の温泉施設を巡る霧島ゆ旅事業や霧島温泉大使アヒル隊長を活用した浴学学習などに取り組んだ。 ■環霧島地域の自然や歴史文化などを活かした環霧島周遊列車の運行を行った。また、錦江湾・桜島をテーマとした写真展を行った。 ■周遊バス等については、飛行機やJRのダイヤ改正にあわせた運行を行った。 ■火山の状況にあわせて、情報発信を行った。また、硫黄山の入山規制に伴い立入規制の看板設置、トレッキングマップの配布を行い、高千穂河原ビジターセンターでは安全対策の一環としてヘルメットの無料貸出しや入山届けの呼びかけを行った。 ■国土交通省の主催する「水のみぐみとふれあう水の里旅コンテスト2014」において、最優秀賞・水の絶景賞のダブル受賞により全国にPR及び知名度の向上が図られた。 ■パイロットインキ社の公式キャラクター「アヒル隊長」をいざ霧島キャンペーン実行委員会が霧島温泉大使に任命し、お互いに共同してPR事業を展開することで、キャラクターの許諾対価を無償とする連携協定を締結した。 ■いざ霧島キャンペーン実行委員会において、霧島おもてなし推進事業で観光施設・ホテル旅館等を対象とした「おもてなし塾」を開催した。また、6つの駅の活性化団体において、環境美化等の取組を行い、観光客を迎える体制を整えた。 ■平成25年度に霧島市の現状や課題を踏まえ作成した、霧島市観光基本計画新戦略プログラムに基づき観光振興対策を講じた。</p> |

| <p>③ 平成26年度施策の目標値と実績値の比較</p> <p>目標達成 ◎ 105%以上 目標をほぼ達成 ○ 95%～105%未満 目標を未達成 △ 95%未満</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">平成26年度成果指標</th> <th rowspan="2">結果</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>7,803,000</td> <td>7,568,596</td> <td>97.0%</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>54,800</td> <td>55,300</td> <td>101.0%</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>E</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>F</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 平成26年度成果指標 | | | | 結果 | | 目標値 | 実績値 | 達成率 | A | 7,803,000 | 7,568,596 | 97.0% | ○ | B | 54,800 | 55,300 | 101.0% | ○ | C | | | | | D | | | | | E | | | | | F | | | | | <p>④ 平成26年度施策の成果指標の達成状況及び要因</p> <p>A 観光客数(宿泊+日帰り)については、実績値は平成25年度と比べて約14万7千人減少し、平成26年度の目標値を約23万4千人下回った。その要因としては大型宿泊施設の閉館、硫黄山の入山規制等により福岡、中国、関西及び関東方面からの観光客が減少したことが考えられる。 B 観光客数(宿泊+日帰り)×観光客1人当りの消費額については、平成25年度に比べて1,673百万円減少したものの、目標値を500百万円上回った。前記Aのとおり観光客数は減少したが目標値に対しては消費額は増加した。</p> |
|--|------------|-----------|--------|----|----|--|-----|-----|-----|---|-----------|-----------|-------|---|---|--------|--------|--------|---|---|--|--|--|--|---|--|--|--|--|---|--|--|--|--|---|--|--|--|--|---|
| 平成26年度成果指標 | | | | 結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目標値 | 実績値 | 達成率 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | 7,803,000 | 7,568,596 | 97.0% | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B | 54,800 | 55,300 | 101.0% | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| F | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|----------------|---|---|---------------------|---|---|----------------|---|---|---------------|---|---|
| <p>⑤ 基本事業の目標達成度 (平成26年度目標と実績との比較)</p> | <p>○=すべての目標値を達成 △=一部の目標値を達成 ×=すべての目標値を未達成</p> <table border="1"> <tr> <td>① 観光客誘致宣伝活動の展開</td> <td>△</td> <td>⑤</td> </tr> <tr> <td>② 地域の特徴を活かした観光資源の開発</td> <td>○</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>③ 観光客の受け入れ体制充実</td> <td>△</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>④ 海外からの観光客の誘致</td> <td>○</td> <td>⑧</td> </tr> </table> | ① 観光客誘致宣伝活動の展開 | △ | ⑤ | ② 地域の特徴を活かした観光資源の開発 | ○ | ⑥ | ③ 観光客の受け入れ体制充実 | △ | ⑦ | ④ 海外からの観光客の誘致 | ○ | ⑧ |
| ① 観光客誘致宣伝活動の展開 | △ | ⑤ | | | | | | | | | | | |
| ② 地域の特徴を活かした観光資源の開発 | ○ | ⑥ | | | | | | | | | | | |
| ③ 観光客の受け入れ体制充実 | △ | ⑦ | | | | | | | | | | | |
| ④ 海外からの観光客の誘致 | ○ | ⑧ | | | | | | | | | | | |

6 平成27年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより) | 7 平成28年度に向けた施策の課題・方向性

| | |
|--|--|
| <p>①豊富な自然観光を生かすため、現状の再認識及び現況を生かした観光地づくりと観光素材のPR、提供を行う。 ②多様な温泉に恵まれていることへの再認識と温泉を生かした観光素材づくりを行う。 ③自然や歴史、文化などの素材を活かす方を具体化し、実行に移す。 ④交通の要衝であることを生かすとともに、地域に点在している観光地への二次アクセス向上に努める。 ⑤火山と共生するため、関係機関が一体となった安全対策を講じる。 ⑥外国人観光客を受け入れるための体制づくりを行う。 ■豊富な観光素材を生かしたPRにより、まずは知名度の向上を図る。(新規誘客) ■再び訪れたい観光地として、魅力ある観光地づくりと地域や関係機関が一体となったおもてなしの充実を図る。(リピーター確保) ■観光基本計画の後期(新戦略プログラム)の進捗状況を精査し、現状や動向を踏まえた観光戦略を講じる。(課題の精査と解決)</p> | <p>①豊富な自然観光を生かすため、現状の再認識及び現況を生かした観光地づくりと観光素材のPR、提供を行う。 ②多様な温泉に恵まれていることへの再認識と温泉を生かした観光素材づくりを行う。 ③自然や歴史、文化などの素材を活かす方を具体化し、実行に移す。 ④交通の要衝であることを生かすとともに、地域に点在している観光地への二次アクセス向上に努める。 ⑤火山と共生するため、関係機関が一体となった安全対策を講じる。 ⑥外国人観光客を受け入れるための体制づくりを行う。 ■豊富な観光素材を生かしたPRにより、まずは知名度の向上を図る。(新規誘客) ■再び訪れたい観光地として、魅力ある観光地づくりと地域や関係機関が一体となったおもてなしの充実を図る。(リピーター確保) ■観光基本計画の後期(新戦略プログラム)の進捗状況を精査し、現状や動向を踏まえた観光戦略を講じる。(課題の精査と解決)</p> |
|--|--|

| | | | | | |
|---------|-------|-------|--------------|--------------|-----|
| 基本事業No. | 3-3-1 | 基本事業名 | 観光客誘致宣伝活動の展開 | 基本事業 主担当課 | 観光課 |
|---------|-------|-------|--------------|--------------|-----|

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

市観光協会、県観光課、県観光連盟、鹿児島四地区観光連絡協議会等と連携を密にし、市内の観光案内施設における情報提供や国内主要都市における効果的な観光客誘致活動を行う。また、マスコミュニケーションやホームページ、インターネット等各種メディアを活用した広報宣伝活動を行う。

| | | | |
|-----|-------|-----|-------------|
| ②対象 | 国内旅行者 | ③意図 | 霧島市を訪れてもらう。 |
|-----|-------|-----|-------------|

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

| ①成果指標名 | 単位 | ②成果指標の測定方法 | ③数値区分 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 (目標年度) |
|---------------|----|------------|-------|---------|---------|---------|-----------|-----------|----------------|
| | | | | 成り行き値 | 861,000 | 861,000 | 861,000 | 861,000 | 861,000 |
| A 国内からの宿泊観光客数 | 人 | 霧島市観光統計 | 目標値 | 959,000 | 978,000 | 997,000 | 1,017,000 | 1,038,000 | 1,058,000 |
| | | | 実績値 | 966,141 | 947,019 | 872,446 | | | |
| | | | 達成率 | 101% | 97% | 88% | | | |
| | | | 結果 | ○ | ○ | △ | | | |
| B | | | 成り行き値 | | | | | | |
| | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | 達成率 | | | | | | |
| C | | | 成り行き値 | | | | | | |
| | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | 達成率 | | | | | | |
| | | | 結果 | | | | | | |

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 国内における日本人観光客数は減少傾向にあるが、国立公園や温泉などの豊かな自然に恵まれ、鹿児島空港所在地としての優位性を活かしながら積極的な誘客活動を進めることで、平成23年度をベースとして施策の目標ベースと同じく、毎年度2%成長を目標とする。

4 平成26年度基本事業の取組方針 | **5 平成26年度基本事業の取組方針の達成状況**

| | |
|--|---|
| <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ユーチューブなどの動画配信による情報発信 ■民間企業との連携やキャラクターを活用したプロモーション ■ロケ誘致やフィルムコミッションの充実 ■空港利用者をターゲットにした情報発信(空港PRブースの活用) ■鹿児島市内及び離島、隣県対策 | <ul style="list-style-type: none"> ■ユーチューブによるアヒル隊長を活用した動画配信 ■アヒル隊長を活用した観光宣伝の実施 ■海外メディアの取材への協力や国内メディアのCM・観光番組への協力を行った。 ■空港利用者に対し、霧島市の特産品であるお茶や黒酢等の試飲によるPR活動や霧島市のイベント情報の発信に努めた。 ■霧島屋久観光連絡協議会や熊本県人吉市、宮崎県えびの市、霧島市で組織する南九州トライアングル事業実行委員会において、観光情報発信のための広域連携事業を実施した。 |
|--|---|

6 平成26年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A 国内からの宿泊観光客数について、実績値は平成25年度と比べて74,573人減少し、平成26年度の目標値に対して124,554人下回った。その要因は硫黄山の入山規制や大型宿泊施設の閉館、御嶽山噴火による登山離れ、夏場の台風の襲来等が考えられる。

7 平成27年度基本事業の取組方針 | **8 平成28年度に向けた基本事業の課題・方向性**

| | |
|--|--|
| <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ユーチューブなどの動画配信による情報発信 ■民間企業との連携やキャラクターを活用したプロモーション ■ロケ誘致やフィルムコミッションの充実 ■空港利用者をターゲットにした情報発信(空港PRブースの活用) ■鹿児島市内及び離島、隣県対策 | <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ユーチューブなどの動画配信による情報発信 ■民間企業との連携やキャラクターを活用したプロモーション ■ロケ誘致やフィルムコミッションの充実 ■空港利用者をターゲットにした情報発信(空港PRブースの活用) ■鹿児島市内及び離島、隣県対策 |
|--|--|

| | | | | | |
|---------|-------|-------|-------------------|--------------|-----|
| 基本事業No. | 3-3-2 | 基本事業名 | 地域の特色を活かした観光資源の開発 | 基本事業 主担当課 | 観光課 |
|---------|-------|-------|-------------------|--------------|-----|

1 基本事業の目的、取組み方針

| | | |
|--|------|-----------------------------|
| ①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より） | | |
| <p>■体験や着地型の旅行志向が高まる中、地域、行政、観光協会及び旅行エージェントとともに、国立公園や温泉群などの豊かな資源を活かして、山や川、海などの体験型、スポーツ・芸術・文化・歴史・ジオパークなどの学習型、セラピーロードを活用した健康志向型など、観光客の様々なニーズにあった商品を企画・提案する。</p> <p>■本市の特産品である関平鉱泉水については、生産施設の整備や充実を図り、新商品の開発や販路拡大に努める。</p> <p>■関係機関と連携し、スポーツキャンプや各種教育施設等を活用した会議等の誘致を促進する。</p> <p>■霧島茶や黒豚、黒牛、黒酢など本市の特産品を使用した食による観光素材の開発を促進する。</p> | | |
| ②対象 | 地域資源 | ③意図 観光に活用できる資源が開発される |

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

| ①成果指標名 | | 単位 | ②成果指標の測定方法 | ③数値区分 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 (目標年度) |
|--------|-------------|----|---------------------|-------|------|------|------|------|------|----------------|
| A | 開発された観光資源の数 | 本 | 開発された観光資源の数 (累計) | 成り行き値 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 |
| | | | | 目標値 | 25.0 | 30.0 | 35.0 | 40.0 | 45.0 | 50.0 |
| | | | | 実績値 | 29.0 | 35.0 | 37.0 | | | |
| | | | | 達成率 | 116% | 117% | 106% | | | |
| | | | | 結果 | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| B | | | | 成り行き値 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | | | | | | |
| | | | | 結果 | | | | | | |

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 観光、商工関係者、地域や学校などとの連携により、観光推進につながる様々な観光素材の開発に努め、最終目標年度までに「観光素材霧島50選」を目指す。

4 平成26年度基本事業の取組方針 **5 平成26年度基本事業の取組方針の達成状況**

| | |
|---|--|
| <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地元関係者による活用資源の現状調査 ■感動の生まれる着地型観光商品の開発 ■健康志向に合わせた「歩く」の商品化に向けた取組 ■日本初の国立公園を活かし、山、川、海の「遊び」を年度ごとのテーマにした話題性のある取組 ■関平鉱泉水生産施設の建設着工 | <ul style="list-style-type: none"> ■霧島観光ガイド連絡協議会(霧島市ふるさとガイドクラブ・霧島森林セラピーガイドクラブ・霧島市シルバーガイドクラブ・霧島ネイチャーガイドクラブ・霧島しつちよいどん)を立ち上げ、市内の自然・歴史・文化等の案内のできる場所等を選定し、現状等の調査を行った。 ■霧島観光ガイド連絡協議会による商品の提供や霧島高原自然体験ツーリズム協議会による着地型の商品開発に取り組んだ。 ■妙見のオルレコースの開発、丸尾自然探勝路等を活用したセラピーイベントの開催を行った。 ■神水峡・惣陣が丘の整備を行った。 ■関平鉱泉水所の施設設備の新築に着手した。 |
|---|--|

6 平成26年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A 観光資源を活かした観光商品の数(累積)については、実績値は平成25年度と比べて2本増加し、平成26年度の目標値に対して2本増加した。その要因は霧島神水峡・惣陣が丘の観光施設整備による。

7 平成27年度基本事業の取組方針 **8 平成28年度に向けた基本事業の課題・方向性**

| | |
|---|--|
| <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■感動の生まれる体験型観光商品の開発 ■日本初の国立公園を活かし、山、川、海の素材を活用した話題性のある取組 ■国民文化祭開催に向けた観光誘客活動の展開 ■地元食材等を活用した特色ある観光素材の開発 ■関平鉱泉水生産施設の建設施工管理及び新商品の開発や販売の促進 | <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■感動の生まれる体験型観光商品の開発 ■日本初の国立公園を活かし、山、川、海の素材を活用した話題性のある取組 ■地元食材等を活用した特色ある観光素材の開発 ■関平鉱泉水生産施設の建設施工管理及び新商品の開発や販売の促進 |
|---|--|

| | | | | | |
|---------|-------|-------|--------------|--------------|-----|
| 基本事業No. | 3-3-3 | 基本事業名 | 観光客の受け入れ体制充実 | 基本事業 主担当課 | 観光課 |
|---------|-------|-------|--------------|--------------|-----|

| 1 基本事業の目的、取組み方針 | | | |
|---|------------------|------|-----------------|
| ①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 接遇、観光案内などの研修会とともに、観光関係団体、地域と一体となった「おもてなし」の意識向上と実践を協働して行う。 ■ 観光案内に資する観光ボランティアガイドの育成を図る。 ■ 二次アクセスの向上に努め、個人や交通弱者でも移動しやすい観光地づくりを推進する。 | | | |
| ②対 象 | 観光業者・観光協会・市民・旅行者 | ③意 図 | 来訪者をもてなす受け皿ができる |

| 2 基本事業の指標等の推移 | | ◎目標達成(105%以上) | | ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) | | | | △目標を未達成(95%未満) | | |
|---------------|--------------------|---------------|--------------|----------------------|------|------|------|----------------|------|----------------|
| ①成果指標名 | | 単位 | ②成果指標の測定方法 | ③数値区分 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 (目標年度) |
| A | もう一度行ってみたい温泉地ランキング | 位 | じゃらん実施のアンケート | 成り行き値 | 26.0 | 27.0 | 27.0 | 28.0 | 28.0 | 29.0 |
| | | | | 目標値 | 21.0 | 14.0 | 13.0 | 12.0 | 11.0 | 10.0 |
| | | | | 実績値 | 14.0 | 16.0 | 15.0 | | | |
| | | | | 達成率 | 133% | 86% | 85% | | | |
| | | | | 結果 | ◎ | △ | △ | | | |
| B | | | | 成り行き値 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | | | | | | |
| C | | | | 成り行き値 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | | | | | | |
| | | | | 結果 | | | | | | |

| 3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠 |
|--|
| <p>A 観光、商工関係者、地域や学校などとの連携により、おもてなしの研修や実践、魅力ある観光地づくりに努め、毎年度1ランクの向上を目指し、平成29年度には10位以内を目標とする。</p> |

| 4 平成26年度基本事業の取組方針 | 5 平成26年度基本事業の取組方針の達成状況 |
|--|---|
| <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 官民一体となった「おもてなし研修」の実施 ■ 各種団体主催、宿泊施設独自の「おもてなし研修」の促進 ■ 子どもや高齢者、障がい者にやさしいバリアフリーの推進 ■ ガイドクラブのネットワーク化 ■ 二次アクセスの具体的展開 | <ul style="list-style-type: none"> ■ いざ霧島キャンペーン実行委員会において、霧島おもてなし推進事業への参画を促し、観光施設・ホテル旅館等を対象とした「おもてなし塾」を開催した。 ■ 始良伊佐地域振興局の主催する、バリアフリーの研修等への参加や民間事業者を対象とした補助事業の計画を策定した。 ■ 霧島市ふるさとガイドクラブ・霧島森林セラピーガイドクラブ・霧島市シルバーガイドクラブ・霧島ネイチャーガイドクラブ・霧島しつちよいどんで組織する霧島観光ガイド連絡協議会を立ち上げた。 ■ 周遊バス等については、飛行機やJRのダイヤ改正にあわせた運行を行った。 |

| 6 平成26年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因 |
|--|
| <p>A もう一度行ってみたい温泉地ランキングについて、実績値は平成25年度と比べて1ランク上がった、平成26年度の目標値に対しては2ランク下回ったが、一定のランキングを維持したものと考える。主な要因としては、継続したおもてなし研修等の実施、魅力ある観光地づくり事業による新たな観光資源の開発の成果と考えられる。</p> |

| 7 平成27年度基本事業の取組方針 | 8 平成28年度に向けた基本事業の課題・方向性 |
|--|---|
| <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 官民一体となった「おもてなし研修」の実施 ■ 子どもや高齢者、障がい者にやさしいバリアフリー観光の推進 ■ ガイドクラブのネットワーク化 ■ 二次アクセス改善の具体的展開 | <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 官民一体となった「おもてなし研修」の実施 ■ 子どもや高齢者、障がい者にやさしいバリアフリー観光の推進 ■ ガイドクラブ内のネットワークのさらなる強化 ■ 二次アクセス改善の具体的展開 |

| | | | | | |
|---------|-------|-------|-------------|--------------|-----|
| 基本事業No. | 3-3-4 | 基本事業名 | 海外からの観光客の誘致 | 基本事業 主担当課 | 観光課 |
|---------|-------|-------|-------------|--------------|-----|

1 基本事業の目的、取組み方針

| | |
|--|-------------|
| ①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■国際航空路線を要する鹿児島空港所在地である優位性を活かし、効果的な観光客誘致活動を行う。また、マスメディケーションやホームページ、インターネット等各種メディアを活用した広報宣伝活動を行う。 ■外国人が分かりやすく安心して観光できるように、外国語表記による観光案内板や観光パンフレットの作成に取り組む。 | |
| ②対 象 | 海外からの旅行者 |
| ③意 図 | 霧島市を訪れてもらう。 |

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

| ①成果指標名 | | 単位 | ②成果指標の測定方法 | ③数値区分 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 (目標年度) |
|--------|-----------|----|------------|-------|--------|--------|--------|---------|---------|----------------|
| A | 外国人宿泊観光客数 | 人 | 霧島市観光統計 | 成り行き値 | 37,000 | 37,000 | 61,000 | 88,000 | 90,000 | 90,000 |
| | | | | 目標値 | 43,000 | 44,000 | 45,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 |
| | | | | 実績値 | 52,459 | 75,335 | 88,063 | | | |
| | | | | 達成率 | 122% | 171% | 196% | | | |
| | | | | 結果 | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| B | | | | 成り行き値 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | | | | | | |
| | | | | 結果 | | | | | | |

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 海外からの観光客数については、世界情勢の変化や政治的背景などにより大きく左右される傾向があるが、空港所在地としての優位性を生かし、積極的な海外セールスに努め、鹿児島空港国際4路線の平成24年・25年の利用者数100,000人を目標とする。

4 平成26年度基本事業の取組方針 **5 平成26年度基本事業の取組方針の達成状況**

| | |
|---|---|
| <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■鹿児島空港国際線定期便就航地をターゲットにした効果的なプロモーション ■現地キーパーソンとの関係強化 ■旅行代理店を招いた商談会への参加及び実施 ■ウェブ、スマートフォン、紙媒体の3方向ツールの強化 ■外国語表記による観光案内板等の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ■定期就航便のある台湾、中国、韓国、香港において、現地エージェントへの情報提供や商品造成を行いプロモーション活動を実施した。また、熊本県人吉市、宮崎県えびの市、霧島市で組織する南九州トライアングル事業実行委員会において、韓国の旅行雑誌者の招聘を行い、観光情報発信に努めた。 ■台湾、韓国、香港における現地の観光協会会長及び役員との交流を行った。 ■観光連盟が主催する台湾、中国、韓国、香港での旅行代理店を招いての旅行商品説明会へ参加した。 ■霧島市のホームページの多言語化を図るとともに、鹿児島県4地区観光連絡協議会において、海外のマスメディアを活用した情報発信に努めた。 ■平成26年度において、地方創生事業を活用した外国語表記観光案内板の計画を策定した。 |
|---|---|

6 平成26年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A 外国人宿泊客数について、実績値は平成25年度と比べて12,728人増加し、平成26年度の目標値に対して43,063人上回った。その要因は、海外への積極的な誘客活動の推進及び円安効果もあり、特に台湾からの宿泊客が大幅に増加したことである。

7 平成27年度基本事業の取組方針 **8 平成28年度に向けた基本事業の課題・方向性**

| | |
|---|---|
| <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■鹿児島空港国際線定期便就航地をターゲットにした効果的なプロモーション ■現地キーパーソンとの関係強化 ■旅行代理店を招いた商談会への参加及び実施 ■外国語表記や観光案内、通信環境など外国人受入体制の充実 | <p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■鹿児島空港国際線定期便就航地をターゲットにした効果的なプロモーション ■現地キーパーソンとの関係強化 ■旅行代理店を招いた商談会への参加及び実施 ■外国語表記や観光案内、通信環境など外国人受入体制の充実 |
|---|---|